

第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官
エリック M. スミス中将 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

MV-22 オスプレイの予防着陸及び米軍機による夜間騒音被害の常態化について
(抗議・要請)

平成 30 年 8 月 14 日、米軍普天間飛行場所属の MV-22 オスプレイが奄美空港に予防着陸したと沖縄防衛局から報告を受けた。加えて、同日には、米軍嘉手納基地においても MV-22 オスプレイが緊急着陸したとの報道がなされている。

普天間飛行場所属の米軍機による予防着陸事案については、昨年来、機種を問わず頻発しており、十分な説明も無い中で、市民は不安を抱えながら生活を送っている。これまで本市として、事案が発生するたびに再発防止の徹底を要請しているにもかかわらず、同様な事案が続いている現状は決して看過できるものではなく、米軍の危機意識や安全管理体制に強い疑問を抱かざるを得ず、憤りを禁じ得ない。

さらに、米軍機による夜間をはじめとする騒音被害についても、市民生活への影響が非常に大きく、本市として 6 月、7 月にも抗議・要請を行うなど、これまで幾度となく「普天間飛行場における騒音規制措置」を厳格に遵守するとともに、市民生活に最大限配慮するよう求めているところであるが、市民からの騒音の苦情は毎日のように寄せられ、直近の 14 日にも上大謝名公民館で 22 時 52 分に 92.2 デシベルもの激しい騒音が測定されるなど、22 時以降の夜間騒音が市内全域において常態化しており、状況は全く改善されておらず、極めて遺憾である。

返還合意から 22 年、市民の基地負担は既に限界を超えており、市民の負担軽減が強く求められている中で、現状が放置されるということは絶対にあってはならない。

については、9 万 8 千名余の市民の生活を守る宜野湾市長として、このような現状は断じて容認できず、厳重に抗議するとともに、下記の事項について強く要請する。

記

- 一、度重なる普天間飛行場所属機の予防着陸事案について、原因を真摯に検証し、再発防止を徹底して図るとともに、市民の不安を払拭するため再発防止に向けたプロセスを速やかに公表し、十分な説明を行うこと
- 一、普天間飛行場に所属する全ての米軍機について、整備状況など安全管理体制の総点検を実施し、改めて安全確認を厳格に行うこと
- 一、日米両政府で合意されている「普天間飛行場における航空機騒音規制措置」を厳格に遵守し、夜間 22 時以降の飛行及び地上での活動は実施せず、それ以外の時間帯においても市民生活に最大限配慮すること
- 一、問題の抜本的解決に向け、市民・県民の悲願である普天間飛行場の一日も早い返還と、5 年以内運用停止をはじめとする返還までの間の危険性除去及び基地負担軽減を早急に実現すること